

## ネットワーク社会に向けたインターネットアーキテクチャ論文特集の発行にあたって

ネットワーク社会に向けたインターネットアーキテクチャ論文特集編集委員会

委員長 吉田 健一



現在、インターネットやクラウドサービスは社会生活に不可欠なインフラとなり、その高性能化、高信頼化などの研究はますます重要になっている。一方、Social Networking ServiceやElectric Commerceサイトに代表される、上記インフラを使ったサービスに関しても、その弊害対策と共に研究の重要性が増している。これらの研究課題はInternet of ThingsやDelay/Disruption-Tolerant Network, Information-Centric Networkなど、新しい技術の出現により、より幅広い観点からの研究を必要としている。このような状況を踏まえ、本特集では、インターネットの基本設計や設計思想につながる基盤技術、運用技術、更には新しい技術の展開に関する論文に加えて、新しいアプリケーションやネットワークを活用した社会システムなど、将来インターネットに向けたインターネットアーキテクチャに関する論文特集を企画した。

本特集では、まず、プライバシーに配慮したIoT向け情報集約基盤であるintelligent Knowledge-as-a-Serviceプラットフォームについて、プロジェクトの代表者の方々に寄稿をお願いした。IoTデバイスから収集したデータはプライバシー情報を含むことが多く、データのオーナーや国の規制により定められる利用許諾条件の遵守は今後重要性を増していくものと予想される。したがって、日本と欧州の事業者によるプロジェクトの概要は今後関連の研究の参考になると考える。更にWebサービスのハードウェアと運用管理コストを低減するための高集積マルチテナントアーキテクチャーについて第一線で活躍中の実務家に御寄

稿頂いた。Webサービスが社会生活に不可欠なインフラとなる中、性能とコストを如何に両立させるかは、研究者だけでなく事業者にとっても重要なテーマと考える。2本の興味深い招待論文を御寄稿頂きましたこと、感謝申し上げます。

また、今回一般論文としては5本の投稿を頂いたが、採録は1本だけと、大変厳しい採録率となった。編集委員会でこれ以外にも内容的にはコミュニティに報告する価値が高く採録したいとかなり議論になった論文があったが、残念ながら採録とはならなかったことを御報告させて頂く。編集委員会での議論を要約すると「専門家として論文内容の価値は評価したいが、このままの文章では理解しづらい」というものであった。論文誌は分野の研究者や専門家が読むだけでなく、この分野に興味をもった多くの方にも理解できるように配慮すべきものとする。今回残念ながら採録されなかった著者の方々にも今一度文章を校正頂き、貴重な研究結果を御投稿頂きたいと考える。

最後に、本特集の発行に際し、最新の研究成果を御投稿頂いた著者の皆様、御多忙中にもかかわらず精力的に御協力頂いた編集委員及び査読委員の皆様には感謝いたします。

吉田 健一 (正員) 1980年東京工業大学理学部情報科学科卒。同年(株)日立製作所入社。1992年9月博士(工学、大阪大学)。2002年より筑波大学大学院ビジネス科学研究科教授。インターネット上の各種データを機械学習の手法を使って解析する研究に従事。2015~16年度電子情報通信学会インターネットアーキテクチャー研究会委員長。

ネットワーク社会に向けたインターネットアーキテクチャ論文特集編集委員会

委員長 吉田健一  
幹事 伊藤嘉浩・渡辺俊貴  
委員 大崎博之・大平健司・小谷大祐・近堂徹平  
佐藤彰洋・地引昌弘・山井成良・渡部康平